

旭P連だより

旭川市PTA連合会

大人が変われば

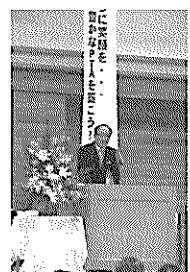


旭川市PTA連合会会長 大垣 宏

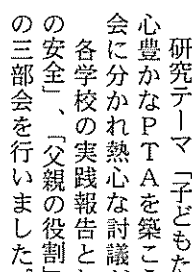
旭川市PTA連合会の会長という重責を背負うこととなって以来、早いもので一年が過ぎようとしています。

さて、昨今の子どもたちを取り巻く環境は、複雑化、多様化しているといわれ、時として至らぬ人間性も垣間見ることがあるほどです。しかしながら、それらにかかわらず、子どもたちの側だけに何らかの原因があるかというふうにはなく、大人の社会に目を移してみても同様のことがいえることも否定出来ません。当然のこととして、子どもたちだけで生活しているわけではありせんから、身近な大人たちの影響を受けたいわけがないということがあると思います。子どもたちの社会は、大人の社会を映す鏡でもあるといわれるのでしよう。

また、私は、この一年の活動の中において、学校教育や子育てに関する様々な今日的課題に向き合う機会も数多く経験いたしました。その課題が何であるかは別として、辿り着くところは、子どもたちへの関心、生活習慣、社会規範意識などに於いて、家庭の役割が十分に果たされていないというところが多いと断言してはならないかと考えさせられたことです。(もちろん、家庭による差異はありますが) 以上のことを考えても、子どもたちに向けて働きかけるばかりではなく、私たち大人自身が変化を求められていることは明らかです。このようなことを避けては行かないと、子どもたちの成長を阻害する恐れがあります。今一度PTAの意義を共有し、各々の立場でその役割を自覚し、粘り強い議論と積極的な行動が必要な時ではないでしょうか。



「教育懇談会」



「広報紙研修会」

平成21年10月19日に行われた、旭川市教育委員会・旭川市子育て支援部との教育懇談会等について話し合いました。

平成21年5月16日におこなわれた、第2ブロック広報紙研修会です。市内各PTAより70名を超える参加者があり、北海道新聞社古家報道部長のお話を聞きながら、広報紙作成にかかわる研修を行いました。

旭川市PTA研究大会

旭川市PTA連合会 研修部担当副会長 大谷地 裕明

第五十回旭川市PTA研究大会が、十一月二十九日旭川市地場産業振興センター、旭川市大雪クリスタルホール旭川市神楽公民館を会場に約七百名の参加にて開催されました。

研究テーマ「子どもたちに笑顔をもたせること」をテーマに、心豊かなPTAを築こう、のめと八部に分かれ熱心な討議がなされました。各学校の実践報告としては「子どもの安全」、「父親の役割」、「読書活動」の三部会を行いました。各部会ともそれぞれ身近なテーマであり、今後のPTA活動に向けた内容のあるものになったと感じています。

【事務局】
旭川市6条5丁目 日章小学校3階
TEL 2312916番
FAX 2312917番
【発行責任者】大垣 宏

感じております。樋口 強様の全体講演「笑いは最高の抗がん剤」では、激しい闘病生活を生き抜いた経験からにじみ出る言葉や笑いに、心に響く強いメッセージが伝わってきました。本研究大会が、今後の我々PTAの活動にひとつでも参考になれば幸いです。最後に、本研究大会の開催にあたりご臨席賜りましたご来賓の皆様、また各部会において貴重なご講演、ご助言をいただきました関係各位、そして大会運営にご尽力いただきました理事の方々および主幹校の東明中学校PTAの皆さまに厚く感謝申し上げます。また、今年度は初めて参加者の方にアンケートをとらせていただきましたので、来年度に反映したいと思います。

生活部「まわり道運動」とPTA研究大会

旭川市PTA連合会 生活部担当副会長 山口龍泰

本年度の生活部の事業としては、昨年から継続事業でもある「まわり道運動」、もう一つは、学校における中学校生徒会活動の研修と報告を中心に事業を推進してまいりました。二年目となる「まわり道運動」では、昨年よりも広域にPR活動をし、今年は旭川中央警察署・東警察署生活安全課の協賛を得てポスターを作成することができました。教育的にも確実に前年度よりも、市内における犯罪・不審者情報の減少につながっていると思えます。今後は二年間の「まわり道運動」の検証をして、更によりよいものになることを願います。

子どもたちを守る 守り隊の活動
子どもたちに
「まわり道」
しませんか!
私たち一人一人が
「パトロール隊」
お仕事の行き帰りに
お買い物の行き帰りに
みんなで子どもたちの笑顔を守りたい
それが、旭川市PTA連合会の願いです。

母親研修会「ホッとしようよ。こんな時間もありました」
母親委員長 木村 笑美子
新型インフルエンザの影響が心配されましたが、九月十九日(土)神楽公民館で二百名を超える参加にて二十五回目の母親研修会を開催いたしました。子どもと向き合うために必要なことの一つに、私たち自身が元気になること、笑顔でいる時間を大切にするのが大事ではないかという考えから体験型研修会を取り入れています。このような研修会は全道でも珍しいそうです。今年度の研究テーマは「ホッとしようよ。こんな時間もありました」とし、忙しい毎日を通して母親委員が心をこめて企画いたしました。神楽公民館にはフラダンスの音楽が流れ、お料理の良い香りが漂い、コミュニケーションを学ぶ教室からは楽しい笑い声が悲鳴のように聞こえていました。参加者、講師、母親委員が一体となり私たちが思うような笑顔がみられる研修会となったことを大変うれしく思っています。企画運営に関わっていただきました役員の方々、参加者の皆さんと共に今回体験したことが毎日の生活や子育て、PTA活動に少しでもお役に立てることを願っています。最後になりましたが、分科会で大変ご尽力いただきました講師の先生方をはじめ関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

旭川市立聖園中学校 三橋校長先生のご協力をいただき、今、家庭で子どもたちの自主性や社会性を育てるために「まわり道」をテーマに部会を持ちました。この部会では、グループ討議で行い、子どもたちの家庭・学校での様子などについて、子どもたちの家庭・学校での様子などについて、保護者の皆様の熱い思いというものを強く感じさせられました。最後になりましたが、部員の皆様には昼夜惜しまずPTAの代表として事業を推進していただきありがとうございます。今後PTA会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

旭川市PTA連合会 生活部担当副会長 山口龍泰
旭川市PTA連合会 生活部担当副会長 山口龍泰
旭川市PTA連合会 生活部担当副会長 山口龍泰

夏季交流は、平成二十一年七月二十七日～三十日まで、旭川の児童が都市を訪問致しました。私も子どもたちと一緒に参加させて頂きました。例年に比べると気温が低いとのことでしたが、やはり北海道の暑さとは違う、猛暑に戸惑いながらも、様々な貴重な体験をさせて頂きました。また、今年の参加児童はとも意識の高い子どもたちで、自分から積極的に学び姿が随所に見られました。ほとんどの子どもたちは、ホームステイ先のご家族のみならず海水浴に行ったり、北海道の海とは違う、「青い海!温かい海!」に感激していました。



旭川・都城 児童生徒国内交流について
事業部担当副会長 小山 英明
今年度の(第二十三回)旭川・都城児童生徒国内交流事業は、旭川市六名、都城七名の参加があり、無事に事業を終えることができました。この事業に関わって頂きました皆様方に心よりお礼申し上げます。



